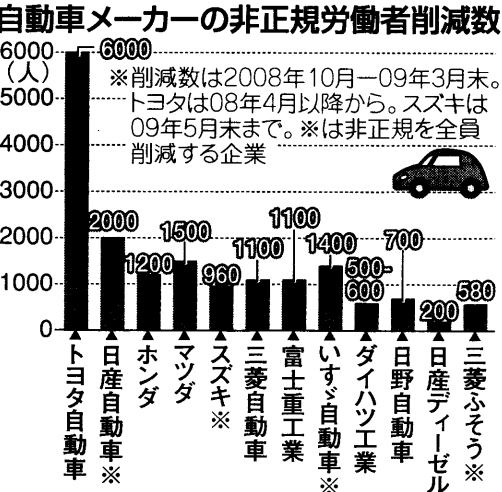
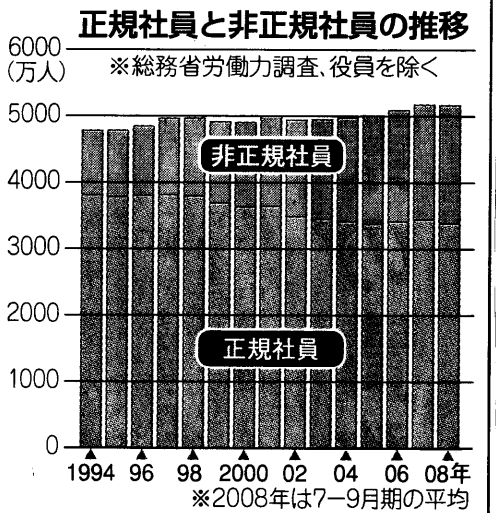
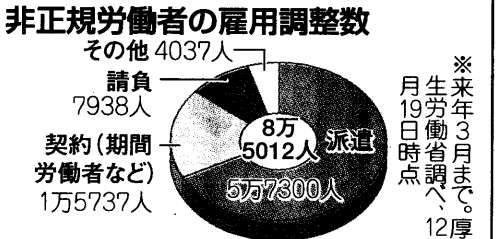
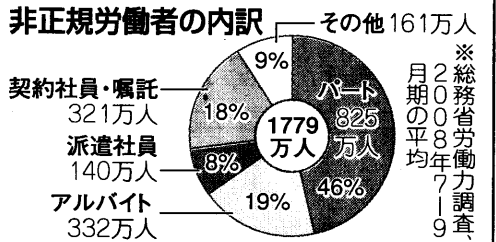


職と住まいを一時にして失った多くの非正規労働者が街に放り出されている。経済情勢の急激な悪化に耐えきれなくなった企業が、簡単に切り捨てた。景気はこの先さらに悪化すると思われる。路上生活者はそのたびに増える。政府の対応は後手に回り、やるせない思いを募らせたまま年の瀬を迎える。



「非正規切り」車が出発点

「加藤(被告)のし合つ。塗装むら、傷などとは絶対に許されどを念にチェックすることじゃない。でし、問題点を見つけたも、会社にあんな仕打ちらタッチパネルに入力をされちゃ、何らかし、補正ラインに回すの仕返しをしてやりました。工場は昼夜二交代制。加藤被告と同じ東富で週五日勤務。昼勤は

厚生労働省の調査では二〇〇七年六月一日現在、派遣労働者数は約百八十八万人。このうち製造業で働く派遣労働者は約四十六万人。好んで派遣と自分自身に甘んじているわけではない。多くは善い彼らにとって迷惑な話だが、九月中旬のリーマン・ショック以降、製造業を中心に急増している「派遣切り」の広がりをみる。今年秋は秋葉原事件とセットで「派遣受難」で計十四人が二百近い長年のラインで車体と四十秒の距離で向き

東京・秋葉原の歩行者天国で六月八日、服装検査ラインで共に働いた元派遣仲間のAと襲われる無差別殺傷事件が起きた。現行犯逮捕された加藤智大被告の仕打ち」とは、加藤がトヨタ系自動車組み立てメーカー、関東自動車工業の工場に派遣労働者の合理化計画の目撃者になった。好調だった北米市場に減速感が強まり、親会社のトヨタ自動車グループ全体の生産計画の見直しに着手。生産規模の縮小を余儀なくされた関東自動車工業は人員規模の縮小を急務とした。五月下旬には派遣労働者の契約打ち切りの話が持ち上がった。後にこれは全員の削減に、加藤被告は修正され、加藤被告は残留することになった。だが、「いざれ残りも切られる」と派遣労働者の中には疑心暗鬼がまん延していた。加藤被告のいた塗装検査ラインは二人一組で計十四人が二百近い長年のラインで車体と四十秒の距離で向き

追い詰められた「ハケン」、



日雇い派遣の禁止など労働者派遣法の改正を求めデモ行進する参加者たち。4日、東京都千代田区で

2008年雇用受難

非正規労働者削減の動きは自動車メーカーから始まったといえる。トヨタ自動車では、夏ごろから非正規の契約満了に合わせて再雇用契約を見送る動きが目立ち始め、九月の金融危機以降はその流れが加速。十月に入ると他の企業も雪崩を打つように雇用削減を走り出した。

年末までに全十二社が非正規の雇用削減の方針を発表。わずか一年もたない間に計約一万七千人が職を失う事態に発展した。期間を待たずして契約を打ち切るケースも出始め、深刻さは増している。

企業側は「非正規の増減は生産量によって調整するもの」「契約期間満了による打ち切りは仕方がない」「経営悪化が深刻になり、

外資哀歌

将来語った翌日、部下

日本で活動する外資系金融マンの間でも、急速なリストラの動きが出ている。高給取りとされる彼らの解雇の瞬間、を、ある欧州系金融マン(51)に紹介してもらった。

ほんの1年前まではわが世の春を謳歌していた私たち。しかしいったん環境が悪くなると、解雇される可能性も高い。ひとたびクビを宣告されたら、その瞬間から私物やパソコンに一切手をつけることも許されず通用口から追い出される、というのはよくある話。給料が高いのだから仕方ない、と思われるかもしれない。でも1億円プレーヤーなどというのはほんの一握りの人の話。多くの外資系金融マンにとってクビになったときの悲惨さは日本企業となんら変わるところがない。

ある欧州系証券会社では100人以上いる東京の従業員の8割以上がリストラの対象となっているそうだ。そこまで極端でなくとも、従業員の1、2割のカットくらいならすでに多くの大手外資系金融機関で行われている。そのた

秋葉原殺傷「僕も仕返ししたいと思った」

かつて限られた専門分野でしか認められていなかった派遣労働者という一つの就労形態が、規制緩和により製造業を含むあまたの業種で低賃金で働かせることのできる労働力として利用されるようになった。多くの企業はその安価な労働力の活用でコスト削減という果実を得たが、結果的に所得が低く、職業経験の乏しい無数の若者の層を日本社会に固定化させてしまった。

「来春は街が失業者であふれる状況になっているかもしれない」。経済団体幹部が予言する。雇用の調整の波は派遣や期間労働者などの非正規従業員から一部の正社員にまで及び始めている。東富士工場に残された百人の派遣労働者も来春までに全員が契約解除されることになった。

「秋葉原の事件を特殊な事件と済ませてはいけない。背景にある問題をそのままにしていたら第二、第三の事件が起きる」。雇用不安が社会を覆うなか、Aさんの言葉が頭から離れない。(花井勝規)

倍大きな不安を抱いていたという。事件の背景に被告の置かれた不安定な立場があったとするならば、事件当時より一段と景気が悪化し、大手メーカー各社で雇用調整が本格化している現状はさらに深刻だ。

企業の論理、職業経験乏しい若者を固定化